

## 再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道防災課  
担当課長名：鈴木 克宗

<b>事業名</b> 一般国道2号 <small>ひろしま</small> 東広島バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道 (二次改築)	<b>事業主体</b> 中国地方整備局	
<b>起終点</b> 自： <small>ひろしま ひろしま あき かみせのちようかみせの</small> 広島県広島市安芸区上瀬野町上瀬野 至： <small>ひろしま あき かいたちようみなみほりかわちよう</small> 広島県安芸郡海田町南堀川町		<b>延長</b>	9.6 km
<b>事業概要</b> 一般国道2号は、大阪市から北九州に至る延長約680kmの主要な幹線道路であり、西日本の大動脈として沿道地域の産業・社会活動や住民の生活に大きな役割を果たす重要な路線である。 東広島バイパスは、国道2号の慢性的な交通混雑の緩和、交通安全の確保、周辺地域との連携強化を図ることを目的とした延長9.6kmの4車線道路である。			
<b>S50年度事業化</b>		<b>S49年度都市計画決定</b> (H8年度変更)	<b>S57年度用地着手</b>
<b>H5年度工事着手</b>			
<b>全体事業費</b> 約1,110億円		<b>事業進捗率</b> 59%	<b>供用済延長</b> -km
<b>計画交通量</b> 26,500~29,500台/日			
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.2  (残事業) 3.1	<b>総費用</b> (残事業)/ (事業全体) 289 / 1,193 億円 (事業費：267 / 1,156億円) (維持管理費：22 / 37億円)	<b>総便益</b> (残事業)/ (事業全体) 890 / 1,387億円 (走行時間短縮便益：815 / 1240億円) (走行費用減少便益：48 / 99億円) (交通事故減少便益：27 / 48億円)
<b>基準年</b> 平成17年			
<b>感度分析の結果</b> 残事業（事業全体）について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.7 (1.3) (交通量+10%)      B/C=2.5 (1.0) (交通量-10%) 事業費変動：B/C=2.8 (1.1) (事業費+10%)      B/C=3.4 (1.2) (事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.9 (0.8) (事業期間+10%)      B/C=3.4 (1.3) (事業期間-10%)			
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保（混雑時旅行速度20km/h未満である現道区間の旅行速度改善が期待される） ・国土・地域ネットワークの構築（広島市と東広島市を最短で連絡）      他17項目に該当			
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 東広島バイパスは安芸バイパスと一体となって、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、広島市、東広島市、海田町の首長で構成される「国道2号東広島・安芸バイパス建設促進期成同盟会」により早期整備の要望（平成17年7月21日）を受けている。			
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 海田町、安芸区での、住宅団地整備やマンション建設等による人口が増加、当該地域に隣接する東広島市における、広島大学の移転及び中央テクニポリスの建設による急速な発展に伴う自動車交通の増加が、広島市東側流入部等における国道2号の慢性的な交通混雑を引き起こしている。			
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 一部において用地補償協議が難航し、工事着手までに長期間を要したが、現在までに海田町内における一般部1.7km、ランプ部0.6kmを部分供用している。			
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 全線にわたり工事を進めており、平成17年度には中野～海田東間においてL=2.7kmが部分供用（暫定）予定であり、平成20年代の全線供用（暫定）を目標としている。			
<b>施設の構造や工法の変更等</b> ICのコンパクト化やトンネル断面の縮小や新技術の活用等によりコスト削減を図っている。			
<b>対応方針</b> 事業継続			
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、今後も事業を継続していくことが妥当である。			
<b>事業概要図</b>			

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。